

スペクトラリスを使いこなそう!

—OCTアンジオグラフィとワイドフィールドOCTの臨床応用—

2017 **7/23** sun.**12:25~13:25**[会場] **A会場 (会議室1003)**

座長

高橋 寛二 先生

(関西医大)

光干渉断層計(OCT)は眼科臨床において必要不可欠な診断機器となりましたが、近年、様々な付加機能が生まれ、日常臨床において診断の精度をさらに向上させることが可能になってきています。その最たるものはOCTアンジオグラフィ(OCTA)であり、造影剤なしで眼底の血管像(血流)を直接検出できる検査として急速に臨床に浸透してきています。一方、眼底の広範囲を一度に確認できる眼底撮影の広角化が様々なモジュールにおいて進化中ですが、OCTの世界でも重視されるようになってきています。

ハイデルベルグスペクトラリスOCTとOCT2にも、最近これらの新しい機能が付加され、OCTAと55°ワイドフィールドOCTが使用できるようになりました。待望のスペクトラリスOCTAの特徴として、他機種にはない高解像度(面内解像度6 μ m/pixel、深さ方向解像度3.9 μ m/pixel)やFA/IA画像との重ね合わせが行えるハイブリッドアンジオグラフィ機能があり、より正確で精度の高い血管像の解析が可能となりました。一方、55°ワイドフィールドOCTでは、対物レンズを55°レンズに交換するだけで、1回のスキャンで幅16.5mmまで広角OCT画像の撮影が可能になり、今までの30°レンズと比べ倍以上の眼底エリアが観察できるようになりました。本セミナーでは、この2つの機能をどのように使いこなして日常診療に活かすかについて、お二人の演者からお話をいただくことになっています。

SpectralisOCT2 の OCT アンジオグラフィの活用



演者

千原 智之 先生

(関西医大)

SpectralisOCT2 のワイドフィールド画像を読む



演者

大音 壮太郎 先生

(京都大)

